

## ハスを見てなにを感じますか？

これから夏になりますと、各地でハスの花を楽しむことができます。とくにお寺ではハスを栽培することが多く、参拝者は大輪のハスと並んでカメラのシャッターを切っています。

ハスには不思議な魅力が秘められていて、思わず花の前でたたずんでしまいます。私も、朝の勤行を終えた窓からハスの姿を楽しんでいます。花びらは明け方に開き、夕暮れに閉じます。開閉を五六日くりかえして花びらは散っていきます。そして、青い果実が茎に支えられ、たくましく直立します。

仏教寺院には、蓮華をデザインした飾りが必ずあります。本堂に坐れば仏像はもちろんのこと、内陣の須弥壇や瓔珞、仏具、欄間、天井、柱、扉、あるいは僧侶が着る法衣にもハスの模様が描かれています。境内のあちらこちらに蓮華をあしらったデザインが容易に目につきます。それはなぜかといいますと、ハスの意味は、そのまま仏心をあらわし、仏教になっているからです。

蓮華には三つ徳があります。悪に染まらない「汚泥不染」と、仏の性質をもって生まれる「花果同時」と、善なる心は壊れない「種子不失」の三つです。この「蓮華三徳」の意味は、金龍寺たよりNo.20(平成 27 年 10 月 15 日号)に書きました。再読してください。

「金龍寺たより」のテーマは、これからしばらく、拙著『空海名言辞典』(高野山出版社刊)から「蓮華」に関する名言を選んで、弘法大師のことばと、ハスの神秘を味わっていきます。ハスの不思議を知れば、仏さまの教えや私たちの本心を悟ることができるからです。

◆**仏知見とは何の処にか在るや 凡夫の内心の最も中に在り 汗栗駄心なり 将に観音を覺らんと またかくの処に於いて 蓮華の形を思え** (法華経開題 重円)

仏の智慧はどこにあるのだろうか。

人の心の中、つまり心臓にある。

観音菩薩を拝み取れば、自分の心に蓮華を思い浮かべるとよい。

空海名言が語るように、観音さまは必ず蓮を持っておられます。仏さまの教えは遠いところにあるわけではありません。私たちのこころにあるのです。この大切な真理に気づかせるために、観音さまは蓮華を手にして、われわれに仏心があることを示されています。仏の自覚をすることが大切であると、空海名言は述べています。

ハスを鑑賞するということは、観音さまを拝むということです。観音さまを拝むということは、自分の良心を拝むということです。人々が清々しくハスと並んでシャッターを切るわけです。